

安平町ゼロカーボンシティ推進協議会（第10回） 議事録

会議名	安平町ゼロカーボンシティ推進協議会（第10回）
日時	令和8年5月26日（火）10時00分～11時10分
出席者 （敬称略）	<p>【委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> • 安平町 町長 及川 秀一郎 • 安平町 副町長 田中 一省 • 安平町 教育長 井内 聖 • 安平町商工会 会長 小林 正道 • 安平地区連合自治会 会長 佐々木 弘 • 早来地区自治会連合会 会長 山下 美樹 • 高村 みずほ • 且見 暁 • 宮崎 晃行 <p>【アドバイザー】</p> <ul style="list-style-type: none"> • 北海道大学大学院地球環境科学研究院 教授 山中 康裕 • 北海道地方環境事務所 次長 西野 雄一 • 北海道銀行 安平エリア統括早来支店長 奥田 啓文 • 北海道電力株式会社 道央南統括支社長 吉田 耕也 • 北海道電力ネットワーク株式会社 道央南統括支店長 黒須 僚子 <p>【事務局】</p> <ul style="list-style-type: none"> • 安平町 税務住民課 生活環境担当課長 佐々木 智紀 • 安平町 税務住民課 ゼロカーボン推進グループ 畠山 津与志 • 安平町 税務住民課 ゼロカーボン推進グループ 柳沢 光 • 安平町 政策推進課 企画担当課長 木村 誠

	<ul style="list-style-type: none"> • エイコーエナジオ株式会社 事業アドバイザー 高島 誠太郎 • エイコーエナジオ株式会社 事業アドバイザー 中尾 敏夫 • 株式会社あびらエナジー 事業アドバイザー 北野 史人
配布資料	<ul style="list-style-type: none"> • 次第 • 出席者名簿 • 5 ゼロカーボン推進に向けた直近の状況共有について（報告） • 6 今後の主なゼロカーボン関連の予定について（報告）

1. 開会

2. 委嘱状交付

及川町長から委員並びにアドバイザーに対して委嘱状の交付が行われた。

3. 事務局紹介

新たに事務局員となった柳沢主査並びに木村課長の紹介があった。また、岸本ゼロカーボン推進員が退任となったことが報告された。

4. 会長挨拶

安平町ゼロカーボンシティ推進協議会設置要綱第6条第1項の規定に基づき、及川町長が議長となり、及川町長から挨拶が行われた。

その中で、高村委員並びに奥田アドバイザーが新たに協議会に加わったこと、重点対策加速化事業の令和7年度事業が無事に完了したこと、今年度以降の事業については中東情勢の影響を受けるため、環境事務所と事業の組み替え等を相談していること、北海道銀行とグリーンローンのプレス発表を行ったことが紹介された。

その他、菜の花さんぽを開催中であることなどが紹介された。

また、設置要綱第 6 条第 2 項の規定に基づいて本会が適正に開催されたことが説明された。

5. ゼロカーボン推進に向けた直近の状況共有について（報告）

事務局より、「5 ゼロカーボン推進に向けた直近の状況共有について（報告）」に基づいて報告が行われ、以下の補足・意見交換・質疑応答が行われた。

【補足・意見交換・質疑応答】

- グリーンローンに関する記者発表の様子は財界さっぽろ 6 月号でも取り上げられた。（議長）
- 記者発表の当日は、本事業の特徴についての質問を多く受けた。その際に、本事業の特徴は、技術や規模ではなく、この協議会の作り方にあることを説明した。一般的にはこのような協議会を設置すると私のような学識経験者が委員になるが、本協議会では私はアドバイザーであり、決めるのは住民の方々であるとなっており、この点が重要である。今は函館市で風力発電について反対運動が起きている。景観への影響が問題視されているが、一方で自分たちのエネルギーをどう作るかという点の検討はうまく進んでいない。安平町は、その点についてしっかりと考えており、それを実現する主体として民間企業ができ、ファイナンスとも上手い形でバランスが取れ、地道に取り組みを進めていることが、今回の記者発表で示せて良かったと思う。（アドバイザー）
- 今回のローンはグリーンローンという取り組みにすることによって、日本格付研究所の第三者評価で最高評価を取得することができた。グリーンローンは透明性の担保が非常に重要となっており、そのような透明性の高い資金によってこの事業が推進されているということを、今回の記者発表を機会に幅広く世の中に浸透できたと思う。（アドバイザー）
- 太陽光発電協会からもセミナーの依頼を頂いており、この良いモデルが横展開されていくことにも貢献できると良い。（事務局）

- 追分中学校の屋根の上の太陽光パネルは雪を被った場合どのようなのか？（委員）
 - 屋上の防水に穴を開けない置き基礎形式で設置している。発電状況の確認を含めた日々のメンテナンスについては、発電事業者が対応しているが、その中で必要に応じて除雪を行ったり、運用を進めているところである。（事務局）
- 中東情勢の影響を受けて事業の組み替えを検討されているとのことだが、調達した資金の中で実現可能なのか？（委員）
 - 正に今、事業調整をしている段階で、様々な仕入れ値が上がってきている状況はあるが、本年度については予算の中で調整できる見込みで進めている。一方で将来のことに目を向けると、電気について自給することで、外の影響を受けずに電気を使うことができるようになる効果がある。（事務局）
 - 昨年度の部分についても、物価高騰を反映し、交付金が上積みされて追加で交付されている。（議長）
 - 安平町としては、2050年にゼロカーボン達成というところを目指しながら、まずは採択された重点対策加速化事業を実施することに集中していきたい。後に出てくるが、公共施設だけではなく、民間の住宅やアパートについても、町として誘導を行い、スマートエコタウンを整備して地産地消のエネルギーモデルを浸透・拡大させていくことも今後の展開として考えている。（議長）

6. 今後の主なゼロカーボン関連の予定について（報告）

事務局より、「6 今後の主なゼロカーボン関連の予定について（報告）」に基づいて報告が行われ、以下の補足・意見交換・質疑応答が行われた。

【補足・意見交換・質疑応答】

- スマートエコタウンの集合住宅については、何世帯を想定しているのか？（委員）

- 1棟あたり6~8戸を想定している。(事務局)
- 使用予定だった機器の製造会社が経営破綻をしたということだったが、予定していた事業は実施するのか？(委員)
 - 当該機器を選定した理由としては、脱炭素先行地域での採用事例があったからであるが、特許を取得した機器なので、全く同じものは存在しない。他の自治体の事例も参考にしながら、別の方法で同じ目的を達成する方法を模索している。(事務局)
- 中東情勢の影響を受け、屋上防水に関係する部分は先送りする形で調整しているが、このように年度ごとの調整はあるものの、重点対策加速化事業については、世界情勢に関わらず、環境事務所にご指導をいただきながら、きちんとやり切る形で進めている。(議長)
- スマートエコタウンの戸建てについては、どの程度で分譲を行う予定か？(委員)
 - 土地について、周辺の売買金額実例を踏まえて設定する予定。(事務局)
- 今は建設コストが上がっており、住宅を建てるのが難しい時期ではあるが、町として支援を行い、このモデル地区でZEH住宅について知った地域の方にもZEH住宅を建てていただけるようなイメージを描きながら進めている。価格についてはまだ公表できていないが、6月~7月にでもチラシ等での周知も行っていく予定である。(議長)

7. その他

その他、全体を通じて以下の意見交換・質疑応答が行われた。

- 1年前にマイカーをPHEVに買い換えた。町内に整備された充電スポットはよく使用している。充電スポット整備のタイミングと合わなければ、PHEVに買い換えることはなかった。そういったご縁を感じており、本協議会に参加することを楽しみにしている。(委員)
- スマートエコタウンについて、該当の土地は早来学園のイベントの際の

駐車場として使っていると認識している。これから造成工事が入ったりするのであれば、他の場所に駐車をするようになると思うが、早めに周知をした方が良いと思う。(委員)

➤ 駐車場の整備はここ数年進めており、5年前などと比べると駐車台数の確保はできているが、早来学園が統合で大きくなったので、駐車場を利用する人も多く、不足気味になっているという課題もある。なお、スマートエコタウンの場所については、上下水道を含めて基盤整備は終わっているので、これから大きな造成工事が入ることはない。(議長)

● 重点対策加速化事業については、資材高騰をどのように回避できるか心配している。(アドバイザー)

● スマートエコタウンについては、ハウスメーカーや工務店との調整はされているのか？当社でも ZEH 標準のスマート電化住宅を促進しているのでご協力できればと思っている。また、移住者を呼び込む際に、対外的な PR が重要になってくるが、今年とうまかまつりで、アイスホッケーチームのレッドイーグルス北海道とブースを出すことを検討しているが、そこでもご協力できるかもしれない。(アドバイザー)

➤ 7月のうまかまつりについては、合併 20 周年ということもあり、盛り上げるために予算も積んでいる。タレントや歌手、アイドルグループに来てもらい、若い世代から年配の世代にまで喜んでいただけるようなお祭りを準備している。(議長)

➤ ハウスメーカーからは問い合わせをいただいております、分譲の条件が定まったら営業をかけていきたい。(事務局)

● 電気の接続の申し込みについては、国の定めたスケジュールが時間のかかるものだったが、令和 7 年度の重点対策加速化事業が間に合っただけでホッとしている。まだ手続きが残っているが、社内では順調に進めていると聞いている。何か困り事があれば相談して欲しい。(アドバイザー)

● 追分中学校の屋根の除雪は手で行うということで、あまり聞いたことは

ないが本気度を感じている。発電がこの事業の命だと思うので、不具合があるようであれば速やかに確認いただくことが重要と思う。(アドバイザー)

- 重点対策加速化事業について、昨年は着実に執行いただいております。必要な見直しについて相談をいただいているが、トータルで目標を達成できるように、柔軟に対応しながら、伴走支援させていただく。(アドバイザー)
- 地域住民、金融機関、民間企業と連携をしているところが素晴らしい。(アドバイザー)
 - 町内4地区の自治会や、商工会、誘致企業会からも参加をいただき、毎回発言をいただきながら協議会を実施しており、そのような状況を見ていただけて良かったと思う。(議長)
- 北海道全体では2025年は再エネ率が44.7%に達しており、最近では抑制が頻繁に起こるようになってきた。去年までだと年に6回程度だったのが、今年の5月は3日に1回程度発生している。再エネの導入だけではなく、使い方まで考えないといけない段階にきている。(アドバイザー)
- 安平町が目指しているのはゼロカーボンそのものではなく、それを通して住みやすい素敵な町を作り、それをPRしてブランドイメージを上げることだと思う。鶴居村はメガソーラー開発を止めるために、8000万円で土地を購入したが、その資金は全てクラウドファンディングで調達し、村のお金は一切使っていない。これは「鶴がいる」というブランドがあったから実現できたこと。ブランドを大切に育てていくことはとても重要なこと。傷つけると取り返しがつかなくなる。ゼロカーボンを進めるだけではなく、魅力的な町を総合的にどのように作っていくかということを考える際に、協議会を活用していくと良いと思う。(アドバイザー)
 - 私の3期目の公約の中にも太陽光発電について促進と抑制をしっかりと

り分けるということを入れさせていただいた。(議長)

8. 次回協議会について

事務局より、令和9年1月26日(火)10:00から次回の協議会を開催予定であることについて説明があった。

また、議長より、必要があれば1月26日を待たずに開催することも検討したい旨の発言があった。

9. 閉会